

平成28年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標	具体的取組	担当	達成度判断基準	集計結果	分析及び来年度への展望《改善策等》
1 学習意欲を向上させ、個に応じた進路実現を確かなものとする。 I C T等を活用し、魅力ある授業の展開に努め、本校の学力スタンダードを実践する。	① 「授業参観週間」を学期に1回設け、複数回の参観を行う。I C Tの有効活用など「相互のスキルアップ」をはかり、授業改善を促進する。	教務課 各教科	他の教員の授業を参観した回数が年間7回以上の教員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である ④ D 70%未満である	D 3月の調査で 7回以上 53%	最後の授業参観週間（1月16日～27日）後、機会あるごとに参観を呼びかけたが目標には達しなかった。5回以上の割合は95%に達しており、来年度こそ目標が達成されるように、授業参観の恒常化を図りたい。また、参観が相互のより良い授業づくりに活かされるよう教科会等で情報の共有を促していきたい。
	② I C T機器を活用した、より効率的で効果的な授業を実践する。	教務課 情報課 各教科	本校の教員はI C T機器を活用して、わかりやすく興味の湧く授業を実践していると答える生徒の割合が A 85%以上である ③ B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	B 1月末の生徒アンケートで 79.8%	積極的にI C T活用に取り組む職員が増加してきたが生徒も単純な利用では興味を示さなくなってきた。継続して効果的利用法を研究していく必要がある。また、今後タブレットの導入が本格化される見込みであり、その研究も必須である。校内研修会等を定期的に持ち、わかりやすく魅力のある授業づくりを目指したい。
	③ 「言語活動の充実」という共通のテーマで生徒の学力向上につながるより効果的な言語活動を学校全体で行う。	教務課 各教科	言語活動に意識して取り組んでいる教員の割合が ② A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	A 3月の調査で 92.9%	本校のスクールポリシーとして掲げられた事項でもあり、職員も積極的に取り組んでいる。生徒同士での話し合いや自身の意見を発表する場を設ける授業づくりは頻繁には実施できないが、グループ活動やプレゼンテーションについてはI C Tの活用とからめて各教科に取り組みを求めている。
	④ 家庭での学習習慣の定着をねらいとする効果的な課題を与え、家庭学習時間を増加させる。	教務課 各学年 各教科	課題の提出率が A 90%以上である ① B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B 1月末の生徒アンケートで 84.3%	各学年が独自に様々な工夫を凝らして毎年提出率が伸びてきている。（昨年度より5.3%増加）課題の量や内容も各教科で精査し、年間の計画も提示されていて、生徒も取り組みやすくなっている。また、朝学習とからめるなどして学習したものがより定着する方策も考えていく必要がある。
	⑤ キャリア教育の充実とともに、個人面談を継続的に行い、目標を明確化させ、有意義な高校生活を送るよう教育活動を行う。	進路指導課 各学年	本校でのキャリア教育が意義あるものとなっていると答える生徒の割合が A 90%以上である ⑤ B 85%以上である C 80%以上である D 80%未満である	B 1月末の生徒アンケートで 86.5%	キャリア教育は進路指導だけでなく学校全体で取り組むべきだという意識を持って全職員がキャリア教育充実に向けて実践していく。また進路ガイダンスや卒業生インタビューなど多くの進路活動を通して生徒一人ひとりが自らの進路について考えるようになった。面談については時間の確保が難しい。来年度は面談週間を設定するなどの工夫が必要である。
学校関係者評価委員会の評価	アンケートの結果からも適切な指導が行われ、徐々にではあるが学習効果も上がっていると感じられる。家庭学習時間が少ないというものの、詳細に見るといわゆるゼロ勉の生徒が減少しており、底上げがなされているとはっきりわかる。プレゼン能力なども意識的に指導され、社会に出てから役に立つ力の育成に尽力されていることに感謝する。今後もこの流れを大切にして生徒を伸ばして欲しい。				
学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策	タブレットの導入が進むと思われるので、これまでとは違った形でのI C T活用を研究していく。そのため、各種研修への参加を奨励し、その成果を校内全体で共有する。また、先進校視察を行っており、アクティブラーニングを意識した対話のある授業をめざし、校内授業参観は他教科の授業を含め積極的に行う一方、近隣中学校と連携し多様な生徒に対応した授業参観も実施して、授業力の向上を図る。キャリア教育に関しては3年間を見通した計画的・体系的な内容を実施する一方、面接週間を設けるなど個人面談を更に充実させ、生徒一人ひとりの進路実現を支援する。さらに、時代の流れに沿った職業研究も合わせて行っていく。				

重点目標	具体的取組	担当	達成度判断基準	集計結果	分析及び年度末への展望《改善策等》
<p>2 学校の魅力を更に磨き、生徒・保護者・地域から信頼される、開かれた学校づくりに努める。</p> <p>校種間交流や地域と連携した取り組みを積極的に行い、広報活動を充実させる。</p>	① 地域及び小中学校等との交流活動や各種の情報紙等による広報活動を通して、本校の教育活動への理解と協力を促進する。	総務課 各コース	<p>各種の交流活動が活発であり、広報活動を通して学校の取り組みがよくわかると答える保護者の割合が</p> <p>Ⓐ 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である</p>	<p>A 12月末の保護者アンケートで 95.0%</p>	<p>近年年を重ねるごとに「よくわかる」と答える保護者の割合が増加し、今年度も95%という高い数値を得ることができた。芸術コースや外国語関係の交流活動をはじめ、様々な活動に関するPRやPTA活動の活性化が奏功していると考えられる。今後も更に活発に行っていきたい。</p>
	② ホームページの更新回数を増やし、地域や小中学校等との交流や学校行事など、本校の特色ある教育活動の様子を積極的に発信する。	総務課 各コース	<p>ホームページを通して学校の交流活動や教育活動に関する情報の発信（更新回数）の年間総数が</p> <p>Ⓐ 150回以上である B 120回以上である C 100回以上である D 100回未満である</p>	<p>A 年度末の集計で更新回数が 201回</p>	<p>プラスワンサポート事業により本校に配属されたHPに関する専門家により、全職員に向けてのIT機器利用についての説明や、HPの全面改訂がなされ、職員全体がHPに対して前向きになり、学校長をはじめいくつもの部署において様々な教育活動についての情報発信がなされ、目標を大きく上回る更新が達成された。しかし、更新頻度がまだ不足している部署や部活動も散見される。</p>
	③ 保護者の携帯電話へのメール配信を行い、PTAとの連携を深め、本校の教育活動の円滑化と活性化を図る。	総務課 各コース	<p>メールを登録している保護者の割合が</p> <p>A 90%以上である B 80%以上である Ⓒ 75%以上である D 75%未満である</p>	<p>C 年度末の集計で 79.5%</p>	<p>クラス担任を通じて1年間あらゆる機会を捉えては保護者をお願いを行い、もう少しでB評価というところに留まった。メール導入時から比べると随分多くなってはいるが、様々な緊急時や災害時に有効な手段でもあり、今後とも100パーセントを目指して呼びかけていきたい。</p>
	④ 地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心になり奉仕活動を展開する。	生徒課 各学年	<p>生徒が近隣地域での各種ボランティア活動に参加する回数が</p> <p>Ⓐ 25回以上である B 20回以上である C 15回以上である D 15回未満である</p>	<p>A 3月末現在で 53回</p>	<p>生徒会を中心に近隣の学校・施設を頻繁に訪問し、清掃・慰問・募金など各種ボランティア活動を積極的に行っており、今後も継続していきたい。今年度協力しようと計画していた地域の除雪ボランティアについては申し込み時期を逸してしまい実現できなかったが、来年度は最優先事項として早くから情報を収集し、計画的に取り組みたい。</p>
	⑤ 地域の方々や保護者とともに行う行事の中で生徒一人ひとりが充実感・達成感の得られるよう生徒自らが主体的に企画・運営する。	生徒課 各学年	<p>行事終了後のアンケート調査で、充実感・達成感があつたと答える生徒の割合が</p> <p>A 90%以上である Ⓑ 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である</p>	<p>B 行事ごとの生徒アンケートで 88.8%</p>	<p>辰巳祭など多くの生徒課行事に対してほとんどの生徒が積極的・自主的に参加するとともに、保護者に加えて地域の方々や同窓生、近隣の大学関係者の協賛と交流をいただき、充実感・達成感を得られたと回答している。今後とも学校を媒介として多くの方々との交流を大切にして発展的に企画・運営を行っていきたい。</p>
	⑥ 家庭との連携・協力を図りながら、服装、頭髪などの身だしなみ指導を全職員で行い、地域社会の一員であることを自覚した学校生活を送る。	生徒課 各学年	<p>服装容儀について生徒心得を守っていると答える生徒の割合が</p> <p>A 95%以上である Ⓑ 85%以上である C 80%以上である D 80%未満である</p>	<p>B 1月末の生徒アンケートで 91.8%</p>	<p>学期の始めごとに全職員で登校指導を行い、各定期試験時には一斉に頭髪服装検査を行った。それぞれの節目にしっかりと身なりを正させるだけでなく、日々の学校生活の中での全教職員による生徒への声かけ自体を大切にしたい。それでも繰り返し注意を受ける生徒は若干名存在し、家庭と連携をとって粘り強く指導する必要がある。</p>
	⑦ 全教職員で協力し、時間の大切さを自覚させ、遅刻の減少を目指すことで規範意識の高揚に努める。	生徒課 各学年	<p>年間を通して遅刻5回以上の生徒数が</p> <p>A 30人以下である B 35人以下である Ⓒ 40人未満である D 40人以上である</p>	<p>C 3月末の集計で 37人</p>	<p>判断基準を今年度より見直した項目である。冬季中の遅刻防止の呼びかけに生徒もよく応えてくれたが目標達成とはならなかった。ただし、遅刻自体の数は昨年度より143人減少している。遅刻を重ねる生徒には早い段階から保護者とともに面談を行い家庭の協力、改善点について確認した。今後は「社会に求められる力とは何か」を考えさせ、規範意識の高揚に繋げる。</p>
学校関係者評価委員会の評価	<p>マナーの向上など社会性が身につけてきている。また、ボランティア等を率先して行ってくれ、地域住民としても学校全体に対して大変好感が持てる。東北の修学旅行で築かれ、新聞等に取り上げられた震災学習における絆が繋がれているようだが、大変うれしく思う。やさしく、思いやりの心をしっかり持った生徒がいることを誇りとして持ち続けてほしい。</p>				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<p>全職員登校指導などの身だしなみや挨拶の指導は今後も継続して行い、地域から愛される学校を目指す。そして、成長した生徒の姿と学校の教育力をPTAの広報活動やホームページばかりではなく、地域の方の目に直接触れるような発信方法を今後検討する。また、清掃や除雪などのボランティア活動は生徒会だけでなく部活動などの組織の協力を得て、さらに拡大充実させる。遅刻指導に関しては、今まで以上に個々の生徒に応じたきめ細かな指導を行うとともに、保護者への働きかけも密にして生徒の規範意識を高める中で遅刻者数を減少させたい。</p>				

